

東経大生のリアル白書 ～東経大生の大学生活の実態調査～

市村 しおり 岡部 智美 塩谷 岳大 鈴木 里奈
高瀬 雄希 高原 健 早川 健輔 宮澤 香穂里

「東京経済大学の学生のデータってないよね?」「もしデータを集めてまとめたら自分達や他の人の研究に有効活用できないか?」と私達は考えたことから東経大生の実態調査をすることとなった。

実際に調査をするに辺り、「具体的にどのようなことについて調査をするのか」という問題が浮上した。そのため、私達は話し合いを行い、大学生について最も気になる事象を挙げていき、『GPAの高低』と『恋人の有無』の2つに絞り、これらを主軸に置いて調査をすることにした。その上、更に、これらの事象を説明する上で関係すると思われる事柄を関連性と共に調べつつ挙げていき、東経大生のGPAの高低についてと恋人の有無について、そしてそれらを説明する要因を調査することにした。

GPAの高低に関しては、講義を休まず出席する学生のほうが欠席することが多い学生よりGPAが高く、更に単位取得数も多くなる傾向が見られることから、「講義を休んで後でノートを借りれば良いや」などという考えは自分の首を絞めることに繋がりがかねないと推測できる。その他には飲み会などの席で飲む酒の量が多い、遅刻をしないことがGPAの低さとの相関が見られた。他にも女性の方が男性よりもGPAが高い、単位取得や良い成績が楽に取れるという評価の講義を狙う集団ほどそうでない集団よりもGPAが低いということから、やはり楽をしようとする人々ほどGPAが低くなる傾向があるのだろう。

恋人の有無に関しては、GPAの高低とは逆に、講義に出席する頻度の多い人の集団ほど講義を休むことが多い人の集団よりも恋人が居る人の割合が低いという結果が出た。他にも飲酒量が多い集団、講義を遅刻せずに受ける人の集団がそうでない集団よりも恋人がいる人の割合が大きいなど面白い結果も出た。そして、性別において比較すると、女性の方が男性よりも恋人がいる比率が高いという結果から、東経大においても世間一般と同じく、男性よりも女性の方がより交際経験がある人が多いと言える。

他にも講義を欠席せず出席する人と痩せていない人には相関関係がある、親との関係が良好な人は自分が好きである、など面白いデータも取れた。

この調査を行った結果として、多くの経験と興味深いデータを得ることが出来たが、進行のプロセスや成果としてはまだまだ稚拙で不十分であったという印象を拭えなかった。この成果となるデータをどう扱うのか、また、データと重ねた経験をどのように活かすのが今後の私達の課題となる。